

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ		必修(精) 選択(社.心)	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メールID		オフィスアワー	
本 敏己	講師控室	kyoumu		授業終了後に質問等受付	
授業の目的・概要	<p><目的>精神障がい者の生活支援に係る施設・団体・関連機関の機能と役割を理解する。司法制度と更生保護制度の内容を把握し精神保健福祉との連携と実際を理解する。医療観察法の成立の経緯、意義と実際を理解する。社会調査の概要と活用の理解を深める。これら幅広い分野において精神保健福祉士が果たす役割を認識するとともに人権擁護の視点を醸成し、実際の支援に必要な知識を習得することを目的とする。</p> <p><概要>同時双方向型授業を通し、教科書の流れに沿って、実際に制度がどのように活用されているのか、現場での実践例に基づき講義を行います。質疑応答などコミュニケーションを通じ理解を深めます。講義では適宜、資料を用いて、理解の幅を広げます。</p>				
学習上の助言	講義の前後に教科書を読むことで理解が深まります。質問も授業中およびオフィスアワーにて受け付けていますので、積極的に質問して、学びを深化させてください。				
教科書	精神保健福祉に関する制度とサービス(新・精神保健福祉士養成講座第6巻) 編：日本精神保健福祉士養成校協会 出版社：中央法規出版				
参考書	特に指定しません				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	行政・民間組織、施設・機関、専門職・地域の支援者の構造や役割を説明できる。			社(1)・精(1)(2)	
②	更生保護制度を理解し、ソーシャルワークとの関連性について説明することができる。			社(1)・精(1)(2)	
③	医療観察法の成立の経緯と内容を理解し、精神保健福祉士の役割と責務が説明できる。			社(1)・精(1)(2)	
④	社会調査の意義と方法を理解し、ソーシャルアクションとの関係性を説明できる			社(1)・精(1)(2)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	事前事後学習内容・必要時間(時間)		
1	相談援助にかかわる行政組織と民間組織を理解する。	同時双方向型授業	教科書により次回の講義範囲を予習する。	1	
2	福祉サービス提供施設・機関の役割 専門職や地域の支援者等を理解する。	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
3	刑事司法と更生保護を理解する。	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
4	保護観察所と更生保護の担い手を理解する。	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
5	司法・医療・福祉の連携の必要性和実際を理解する。	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
6	医療観察法の意義と内容を理解する。①	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
7	医療観察法の意義と内容を理解する。②	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
8	医療観察法の審判と精神保健参与員の役割を理解する。①	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
9	医療観察法の審判と精神保健参与員の役割を理解する。②	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
10	指定入院医療機関における処遇を理解する。	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
11	地域処遇を理解する。	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
12	社会復帰調整官の役割と実際を理解する。①	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
13	社会復帰調整官の役割と実際を理解する。②	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
14	社会資源の調整・開発に結びつけた事例から社会調査の目的、倫理及び方法と活用を理解する。	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習と次回講義範囲を予習する	1	
15	後期講義のまとめ	同時双方向型授業	教科書、配布資料による復習	1	
試	定期試験 達成度評価・評価のポイント参照				

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		60	30	0	0	10	100	
総合力指標	知識・技術力	60	0	0	0	0	60	
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	5	0	0	0	5	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	10	20	
	問題を発見・解決する力	0	5	0	0	0	5	
評価のポイント						フィードバックの方法		
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	定期試験期間に記述式のテストを実施します。基本的な知識を問いますので、教科書を読み込み、授業で述べるポイントを理解してください。特別な参考書などは必要ありません。				試験回答の添削・返却・解説	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
レポート	①	✓	毎回の講義で課題（リアクションペーパーにあたるもの）を提出していただき、講義内容の理解度について評価を行います。				講義において講評を述べるとともに、質問への回答を行います。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	講義におけるレスポンスや積極性について評価を行います。				講義中に伝えます。	
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
備 考								
<p>担当教員実務経験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格 精神保健福祉士、介護支援専門員 ・実務経験 1990 年より精神科病院 PSW、介護老人保健施設 MSW、居宅介護支援事業所介護支援専門員などを務める。現在、介護老人福祉施設に生活相談員として勤務。管理業務も兼任して業務にあたっている。 ・どのような授業を行うか。 <p>教科書に記載されている基礎事項を踏まえたうえで、教員の実践事例を提示し、法律や制度活用の実際と活用時におけるソーシャルワーカーの視点を学習する。広範囲にわたる法制度の具体的な運用について、これまでの実践に基づき、具体的に説明することで、法制度が身近なものとして理解できるよう授業をすすめます。</p> <p>精神保健福祉士受験資格取得希望者は必ず履修すること。</p>								